

視聴覚教育

NO 124

発行日
61.7.11発行
岡崎市AVL

編集

広報委員会

教育用ソフトの共同開発を

パソコン・アナライザー委員会委員長 畔柳 正弘

臨時教育審議会は、本年四月に出した「教育改革に関する第二次答申」の中で、時代の推移に対処するための施策として「情報化への対応のための諸改革」を取り上げ、初等・中等教育や社会教育については「情報手段の活用を進め、それを通じて情報活用能力の育成を図る必要がある」と提言した。

岡崎では、約二年前に全中学校にパソコンが導入され、情報化社会到来への対応の第一歩が踏み出された。それ以後各中学校ではクラブ活動を中心に、パソコンの活用を努力するとともに、教師はデータ処理・分析の効率化を図る

とともに、授業におけるパソコン利用を追究してきた。

授業へのパソコン導入についての最大の課題は、教育用ソフトの問題である。市販のソフトの利用については、それらが授業になじまないことが多いと言われており、理想的には教師一人ひとりが、自分の生徒に応じたソフトを作ることであろう。しかし、現在の私たちにはそのようなゆとりはなさそうだ。そこで、パソコン・アナライザー委員会を媒体として、各中学校で試作したソフトの紹介や交換を行うとともに、教育用ソフトの共同開発・実践結果の検討や評価を試みてはどうであろうか。

富山県では県レベルで教育用ソフトの開発を試行しているという。また、本県でも、情報化社会を迎える教育現場の在り方について検討する委員会が誕生し、対応に着手することになったという。

他郡市に先駆けてコンピュータ導入に恵まれた私たちへの課題を改めて確認し、研究活動を推進させたい。



本校には、図書館と隣接して視聴覚室が設置されており、その他の諸資料が視聴覚室の回りにある。図書館と視聴覚室等の諸資料を併せて教育文化センターと呼称している。

そのために、視聴覚室は、教材提示装置はもとより、新しくレーザーディスクが入り、TP資料・スライド・ビデオテープ・レコード盤・紙芝居・各教科の単元別資料を集中管理方式にし、分類整理・保管していこうとする方向にきている。一部、台帳・分類カードの作成をしているが、今後も作業を進めていきたい。

本校では、よりよい授業を目指す時は、必ずその基盤として図書館・視聴覚活動が浮かび上がってくる。教材を豊かにする素材はいくらでもあるが、現場学習を除けば、集約的に提示できる場合は、図書館（視聴覚）である。諸資料の活用は、授業の中身をより充実させると考えており、それが未来を担う子どもの育成につながるものと信じている。

夏期実技講習会のお知らせ

《視聴覚教育技術養成講習会（16ミリ映写機等）》

*7月26日（土）～27日（日）の2日間

【太陽の城】 9時～17時

*16ミリ映写機の操作等（学科・実技試験あり）

*16ミリ映写機操作認定証のない人（一般募集者を含む）



《ビデオ講習会》

*8月1日（金）～2日（土）の2日間

【愛宕小学校】 8時30分～16時

*ビデオの基本操作、つなぎどり編集、電子編集等の自作ビデオづくり

*希望される先生（一般募集者を含む）

《校内放送講習会》

*8月4日（月）

8時30分～

【美川中学校】

*放送局アナウンサーによる校内放送練習

*各校放送担当の先生と児童・生徒1～2名

